

自の儀は、壽永仁治等の例を摸せられ侍り、寶劔不御坐事は、壽永初例にや、此度太上天皇○後の白河の詔宣にて其儀を被行、元弘建武兩度も彼例を被守侍り、このたびは、上皇○光外都にましますに
 よりて、宣命制作に不及、依て上古渺焉の蹤跡を追て被遂行侍り、内侍所御幸櫃佐女牛若宮寶殿
 に置れけること、今夜密々に内裏に渡入奉る、如在の禮奠に擬せられ侍にや、○中壽永度靈寶の
 歸坐をまたず踐祚あるべきや否、後白河院月輪の殿下時に左府兼實○に訪仰られし時、御返事に三
 種寶物を不渡事、繼體天皇御例、不可有異儀之旨計申されき、

〔續本朝通鑑五十六〕正平七年八月丁巳、皇子彌仁○後自持明院殿移土御門内裏先元服於小御

所而入寢殿行踐祚之禮、無親王之宣、無立坊之事、無讓位之宣命、不帶三種神器而登極、未曾有例
 也、是日從一位藤良基復爲關白傳稱、公卿依義推舉、踐祚之事、然以無三種神器、故疑難不立、
藤良基曰、遂拜天照大神、可以擬神鏡、而以尊氏義詮、換寶劔、如神

雖則其基雖不肯准之、何疑之有、由之議決、

踐祚以前聽政

〔皇年代略記天智〕孝德天皇大化元年乙巳六月、立太子、辛酉年七月、齊明崩、以來皇太子厚至孝不稱
 即位、壬戌以來、於岡本宮攝政五箇年、○中八年己巳正月戊子、即位、

○按ズルニ、天智天皇ノ攝政ノコトハ、皇太子篇ノ太子攝政ノ條ニ詳ニセリ、就テ看ルベシ、
 〔續日本紀三十〕寶龜元年八月癸巳、天皇崩于西宮寢殿、春秋五十三、左大臣從一位藤原朝臣永手○中
 略等定策禁中、立諱仁光爲皇太子、丙午、葬高野天皇於大和國添下郡佐貴郷高野山陵、庚戌、皇

太子令旨、如聞道鏡法師、竊挾祗梗之心爲日久矣、陵土未乾、奸謀發覺、是則神祇所護、社稷攸祐、今願
 先聖厚恩、不得依法入刑、故任造下野國藥師寺別當發遣、宜知之、即日遣左大辨正四位下佐伯宿禰
 今毛人、彈正尹從四位下藤原朝臣楓麻呂、促令上道、以從五位下中臣習宜朝臣阿曾麻呂爲多、嶽嶋
 守、九月壬戌、令旨、比年令外之官、其員繁夥、徒費國用、無益公途、省官簡務、往聖嘉典、除要司外、宜悉
 廢矣、又以去天平寶字九歲、改首史姓、並爲旣登、彼此難分、氏族混雜、於事不穩、宜從本字、又先著袍衣